



早稲田大学・東京都市大学 共同原子力専攻
第20回未来エネルギーフォーラム・シンポジウム

日本原子力研究開発機構 (JAEA) の 果たすべき役割

2025年12月13日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

大井川 宏之

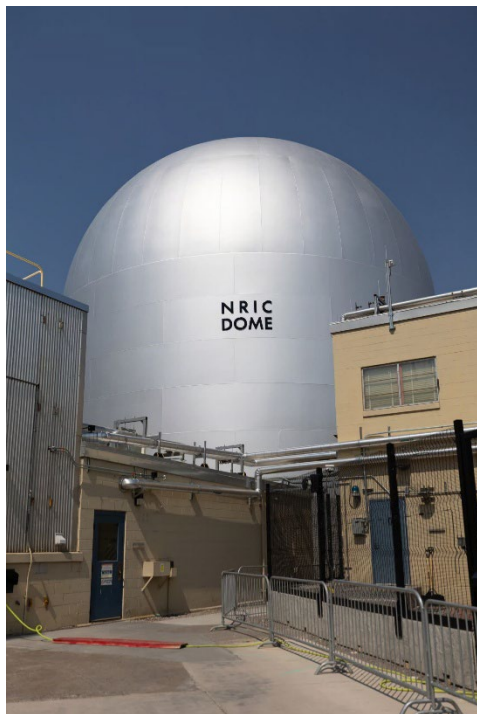
米国 アイダホ国立研究所 (INL)

- ◆ DOMEテストベッド (Demonstration of Microreactor Experiment)

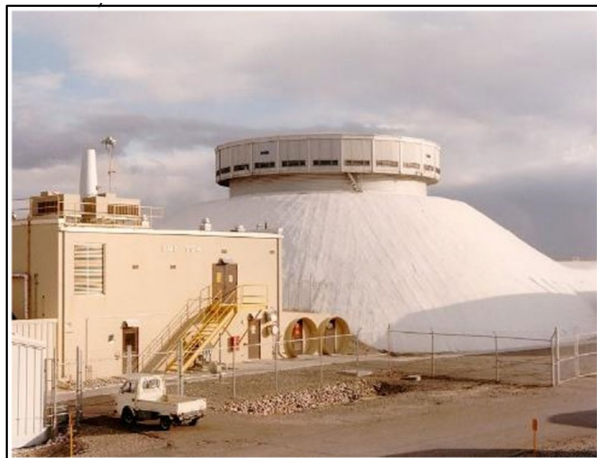
廃止された高速増殖実験炉EBR-IIの格納容器を利用して、20MWtまでの炉を試験できる。2026年より開始予定。

- ◆ LOTUSテストベッド (Laboratory for Operations and Testing in US)

廃止された臨界実験装置ZPPRの格納施設を利用して、500kWtまでの炉を試験できる。2026年より着工。民間企業による熔融塩炉の試験を予定。



<https://nric.inl.gov/dome>



<https://nric.inl.gov/lotus/>

米国 アイダホ国立研究所 (INL)

- ◆ BWXT社は国防省受託のプロジェクト「Pele」(1～5MWtの被覆粒子燃料ガス冷却モバイル炉)をINL敷地に建設するための整備を開始(2024年9月)。



<https://www.war.gov/News/Releases/Release/Article/3915633/dod-breaks-ground-on-project-pele-a-mobile-nuclear-reactor-for-energy-resiliency/>

- ◆ オクロ社は初のオーロラ発電所 (EBR-IIの実績に基づくNa冷却金属燃料高速炉)をINL敷地内で着工(2025年9月)。



<https://www.oklo.com/newsroom/news-details/2025/Oklo-Breaks-Ground-on-First-Aurora-Powerhouse/default.aspx>

米国 オークリッジ国立研究所 (ORNL)

◆ 周辺に様々な取組が活発化

Type One Energy
(核融合炉)

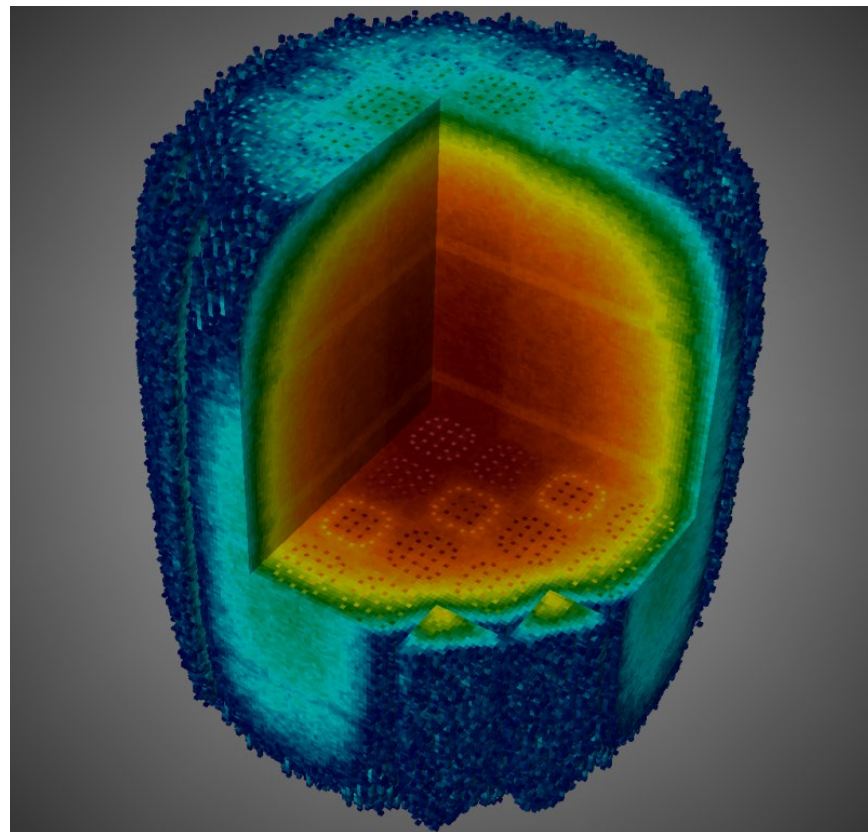


米国 オークリッジ国立研究所 (ORNL)

- ◆ モンテカルロ炉物理計算と冷却材流動計算を結合したSMR用エクサスケールシミュレーションコード (ExaSMR) を開発中



<https://www.ornl.gov/news/exasmr-nominated-2023-acm-gordon-bell-prize>



https://www.ornl.gov/project/exasmr-coupled-monte-carlo-neutronics-and-fluid-flow-simulation-small-modular-reactors?utm_source=chatgpt.com

米国 アビリーン・クリスチャン大学(テキサス州)

- ◆ 原子力規制委員会(NRC)は、ナチュラ・リソース社が開発しているMSR-1(1MWtの溶融塩燃料炉)を建設するための許可をアビリーン・クリスチャン大学に発行した。(2024年9月)



<https://acu.edu/2024/09/23/nrc-issues-construction-permit-for-natura-resources-molten-salt-reactor-at-acu/>

フランス CEAカダラッシュ研究所

- ◆ 仏国のSMR開発企業Calogenaは、熱供給用SMR(水冷却、30MWt)のカダラッシュ研への設置を検討するLOIをCEAと締結(2025年8月)

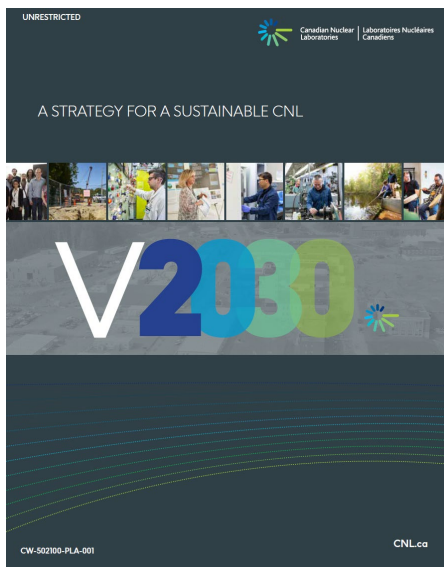


<https://www.world-nuclear-news.org/articles/heating-smr-to-be-assessed-for-cadarache-site>

カナダ 原子力研究所 (CNL)

◆ 組織のビジョンである「V2030」に基づき、チョークリバー研究所の再活性化 (Revitalization) プログラムを実施中。

「環境回復と保護」、「クリーンエネルギー」、「健康への貢献」が3本柱で、古い実験施設の解体、オープンキャンパス化した新研究施設の建設、SMR開発の支援、医療用RIの製造などに取り組んでいる。



https://www.cnl.ca/wp-content/uploads/2022/09/Strategy_Final_EN.pdf

<https://www.cnl.ca/about-cnl/revitalization-of-the-chalk-river-laboratories/>

韓国 KAERI

- ◆ 慶州(キョンジュ)市 甘浦(カンポ)に第2キャンパスを建設中。
SMRの実証施設を含む先進原子力技術の中心とする構想。



<https://www.kaeri.re.kr/rcus/board?menuId=MENU00764>

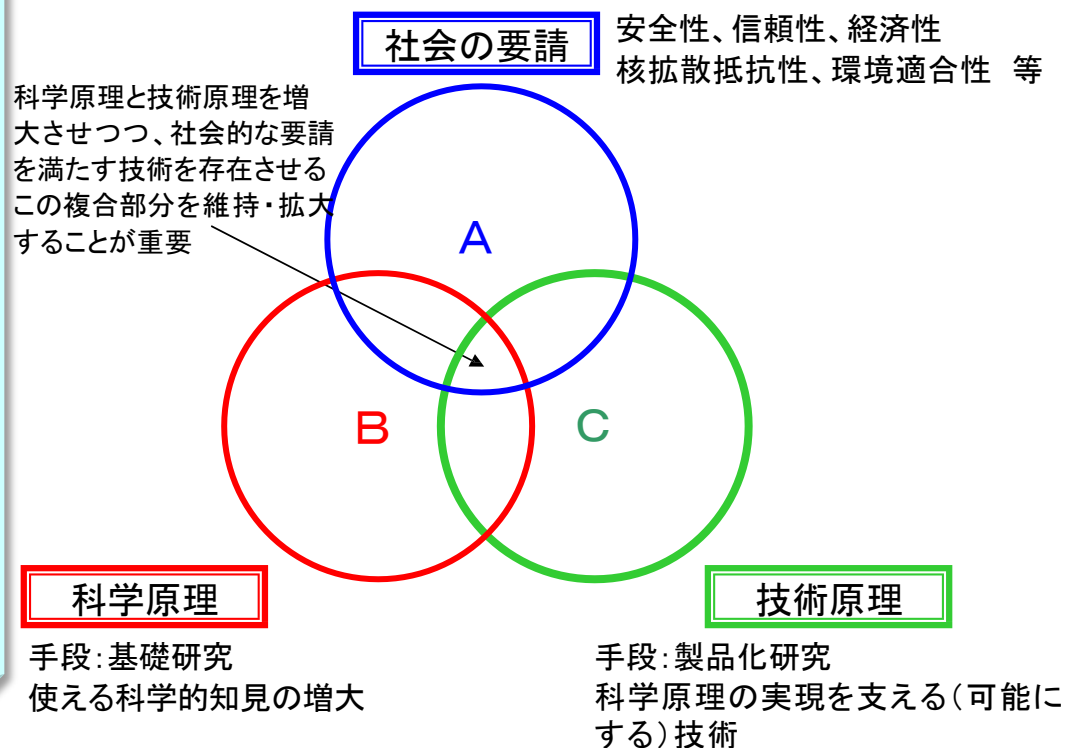
- 多くの国で**原子力科学技術の研究開発が活発化**するにつれ、国立研究機関や大学の活性化が進んでいる。
- 特に、**民間と組んでSMRのデモンストレーション**に貢献する国が多い。



- 国立研究機関の役割は、リニア開発モデルにおける「**バトン中継者**」の位置づけから、スパイラル開発モデルにおける「**伴走者**」の位置づけにシフトしてきている。

□ 原子力委員会 研究開発専門部会
「原子力政策大綱に示している原子力研究開発に関する
取組の基本的考え方の評価について」
(2009年11月17日)の記載

原子力に関する研究開発・技術開発活動においては『基礎研究→実証研究→実用化』といった直線的なアプローチで目標が達成されると考えるべきではなく、最新の科学的知見を提案・活用して、技術的要件と社会的な要請に絶えず見直しを掛けつつ、それらを整合させる技術システムの実用化を目指し続けるスパイラル型の技術開発活動が必要となることを認識すべきである。



https://www.aec.go.jp/kettei/kettei/20091117_2.pdf

https://www.aec.go.jp/kaigi/teirei/2009/siryoy42/1-1_haifu.pdf

JAEAの概要とミッション・ビジョン

- ◆ JAEAの概要
- ◆ 「ニュークリア × リニューアブルで拓く新しい未来」

JAEAの果たすべき役割

- ◆ 支える： 原子力の社会実装をサポートする
- ◆ 守る： 安全な原子力利用を守る
- ◆ 切り拓く：最先端の原子力科学技術を先導する
- ◆ つなぐ： 原子力以外の分野との橋渡し
- ◆ 育てる： 包括的人材成長エコサイクルを回す

常勤職員数：約3,100人（2025年3月時点）
（うち研究670名、技術1,930名、事務500名）

東濃地区

高レベル放射性廃棄物処分技術に関する研究開発（結晶質岩系対象）を実施



幌延地区

高レベル放射性廃棄物処分技術に関する研究開発（堆積岩系対象）を実施



福島地区

東京電力(株) 第一原子力発電所事故関連の対応業務を実施



青森地区

原子力船「むつ」の原子炉等を保管核燃料サイクルへの支援業務を実施



敦賀地区

もんじゅは政府方針に従い廃止措置に移行、ふげんにおける廃止措置研究を実施



東海地区

安全研究、原子力基礎・基盤研究の推進、中性子利用研究の推進、高レベル放射性廃棄物処分技術に関する研究開発、高速炉燃料加工開発、軽水炉再処理技術開発、原子力研修や防災研修を実施



人形峠地区

ウラン濃縮関連施設の廃止措置を実施



播磨地区

放射光利用研究を推進



東京・柏地区

計算科学研究等を実施

大洗地区

常陽や照射後試験施設等による高速炉サイクル技術開発、HTTR等による高温ガス炉・核熱利用研究等を実施





HTTR
(高温工学試験研究炉)



常陽
(高速実験炉)



JRR-3
(研究炉)



NSRR
(原子炉安全性研究炉)



SPring-8
(放射光施設)



TANDEM
(重イオン加速器)



J-PARC
(大強度陽子加速器施設)



STACY
(臨界実験装置)



ホットラボ
核燃料・RIの使用施設



CLEAR
(高度環境分析研究棟)



CIGMA
(大型格納容器実験装置)



スーパーコンピューター
(HPE SGI8600)

第20回 原子力機構報告会

原子力による新たな価値の創造に向けて ～設立20年 原子力機構が目指す未来～

2025年10月22日 @イイノホール

<https://www.jaea.go.jp/jaea-houkoku20/>



原子力機構 20年



一層の飛躍を期待しています



立地市町村長からのビデオメッセージ



まず初めに、福島第一原子力発電所でのALPS処理水の分析支援について IAEAとの協力のお礼を述べたいと思います

IAEAグロッシー事務局長からの
ビデオメッセージ

ミッション:

原子力科学技術を通じて、人類社会の福祉と繁栄に貢献する

ビジョン:

「ニュークリア×リニューアブル」で拓く新しい未来

ビジョン紹介(動画 3' 33)

https://www.youtube.com/watch?v=_JKsxmbSDUI

設立20周年(動画 2' 51)

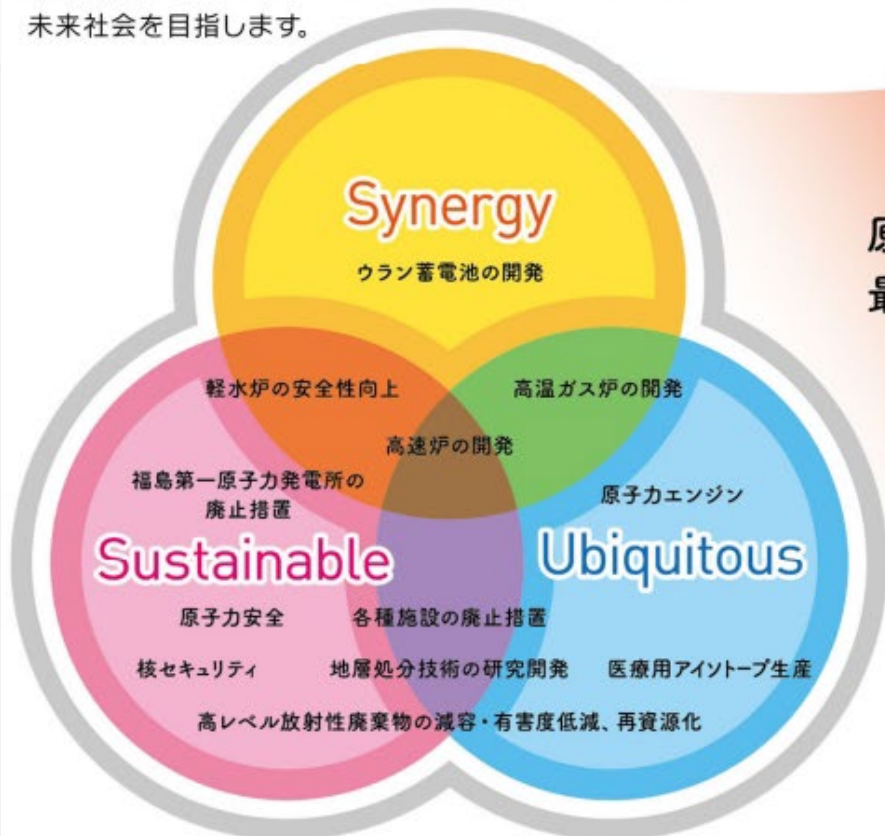
<https://www.youtube.com/watch?v=t2mW3NdZt0g>

原子力機構のビジョン ~目指す将来像~

「ニュークリア×リニューアブル」 で拓く新しい未来

原子力(ニュークリア)と

再生可能(リニューアブル)エネルギーが二元論を乗り越え、
融合することで実現する新しい持続可能(サステナブル)な
未来社会を目指します。



原子力科学技術を
最大限に活用

原子力と再生可能エネルギーとの相乗効果の追求

原子力自体を持続可能なエネルギー源とする

原子力を社会の幅広い分野で活用する

これまでの考え方:

- ・革新的科学技術を研究し、民間にバトンタッチする
基礎研究→応用研究→開発研究→技術実証→社会実装
(リニア・モデル)

これからの考え方:

- ・**社会ニーズ／スピード感／水平・垂直連携** を重視して
イノベーションの源泉・触媒となる

- ◆ 支える: 原子力の社会実装をサポートする
- ◆ 守る: 安全な原子力利用を守る
- ◆ 切り拓く: 最先端の原子力科学技術を先導する
- ◆ つなぐ: 原子力以外の分野との橋渡し
- ◆ 育てる: 包括的人材成長エコサイクルを回す

事故耐性燃料の開発 → 新型燃料プラットフォーム

- 安全性向上に加え、性能向上による経済性向上も期待される事故耐性燃料の基礎基盤研究及び実装化開発
- Accident Tolerant Fuel → Advanced Technology Fuel と幅を広げ、国内大学・研究機関、メーカー、電力、官公庁が参画するプラットフォームを形成 (2025年7月)
https://tenkai.jaea.go.jp/atf_pf/

[Crコーティングジルカロイ: PWR]

- ・三菱重工業(MHI)

[FeCrAl-ODS: BWR]

- ・日立GE/グローバル ニュークリア フュエル ジャパン/日本核燃料開発

[SiC/SiC複合材: BWR&PWR]

- ・東芝ESS
 - BWR/PWR向け燃料被覆管
 - BWR向けチャンネルボックス
- ・日立GE
 - BWR向け燃料被覆管

[事故耐性制御棒: BWR&PWR]

- ・電力中央研究所(CRIEPI)

JAEAの役割:

- プロジェクト全体の調整
- 共通技術基盤の整備
 - 照射試験技術
 - 燃料振舞い解析コード

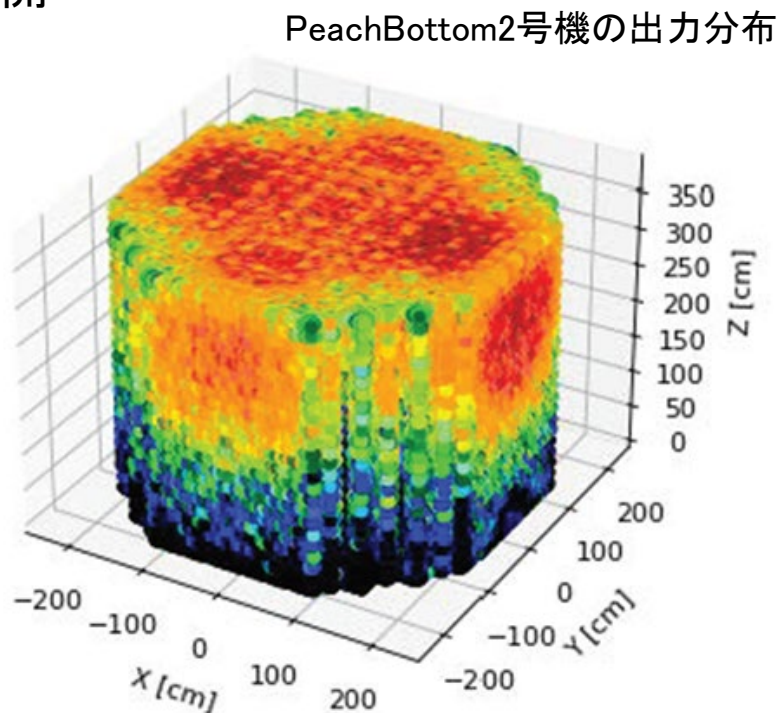
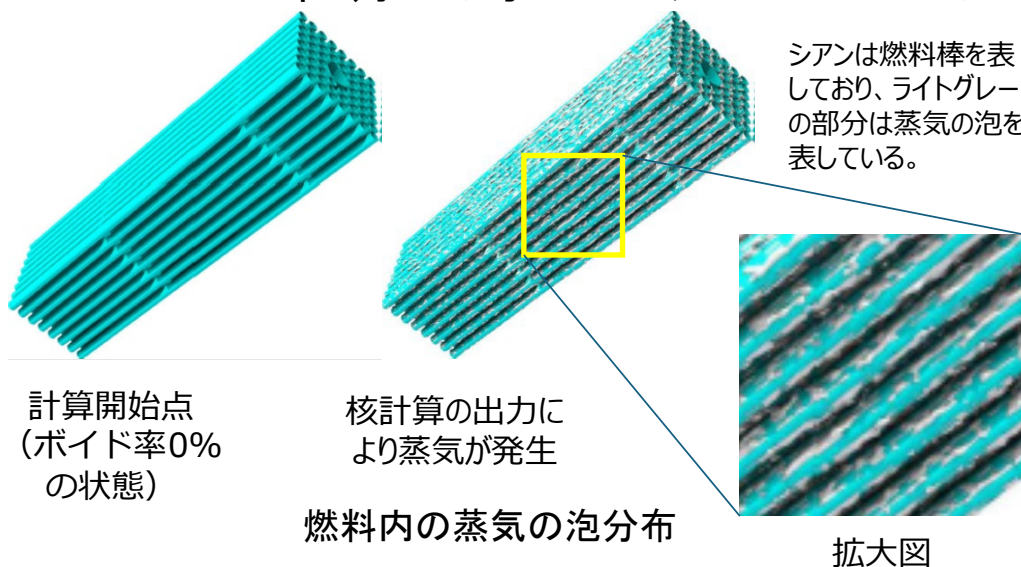
国際協力で実施中の各種試験の計画

	4/2024	9/2024	12/2024	4/2025	9/2025
Crコーティングジルカロイ(MHI)				<u>米国ATR/INL: 低燃焼度照射試験 (完了)</u>	<u>米国ATR/INL 低燃焼度材の照射後試験</u>
FeCrAl-ODS (日立GE/GNF/NFD)				<u>米国ATR/INL: 端柱接合技術開発</u>	<u>米国ATR/INL 照射試験開始</u>
SiC/SiC複合材 (東芝ESS, 日立GE)				<u>米国MITR/MIT: BWR水質環境下における材料照射試験を実施中</u>	<u>米国MITR/MIT 4サイクルまで材料照射試験を継続</u>
事故耐性制御棒 (CRIEPI)				<u>独国QUENCH/KIT: Cr-Zry燃料バンドルを用いたDEC模擬試験 (OECD/NEAプロジェクト)</u>	

→ 上記試験は全て経産省資源エネルギー庁からの助成を受けて進行中

核特性解析・熱流動コード等を連成させた機構論的マルチフィジックスコードシステム(プラットフォーム)を構築

- バーチャル・リアクター実現に向け、原子炉の炉心設計を加速するシミュレーション・プラットフォーム「JAMPAN」を開発（2024年11月プレス発表）
<https://www.jaea.go.jp/02/press2024/p24110103/>
- 2025年4月にはオープンソースコードとして公開



JAMPAN上でMVP/JUPITERコードを用いた機構論的マルチフィジックス(核熱連成)・シミュレーション結果の一例

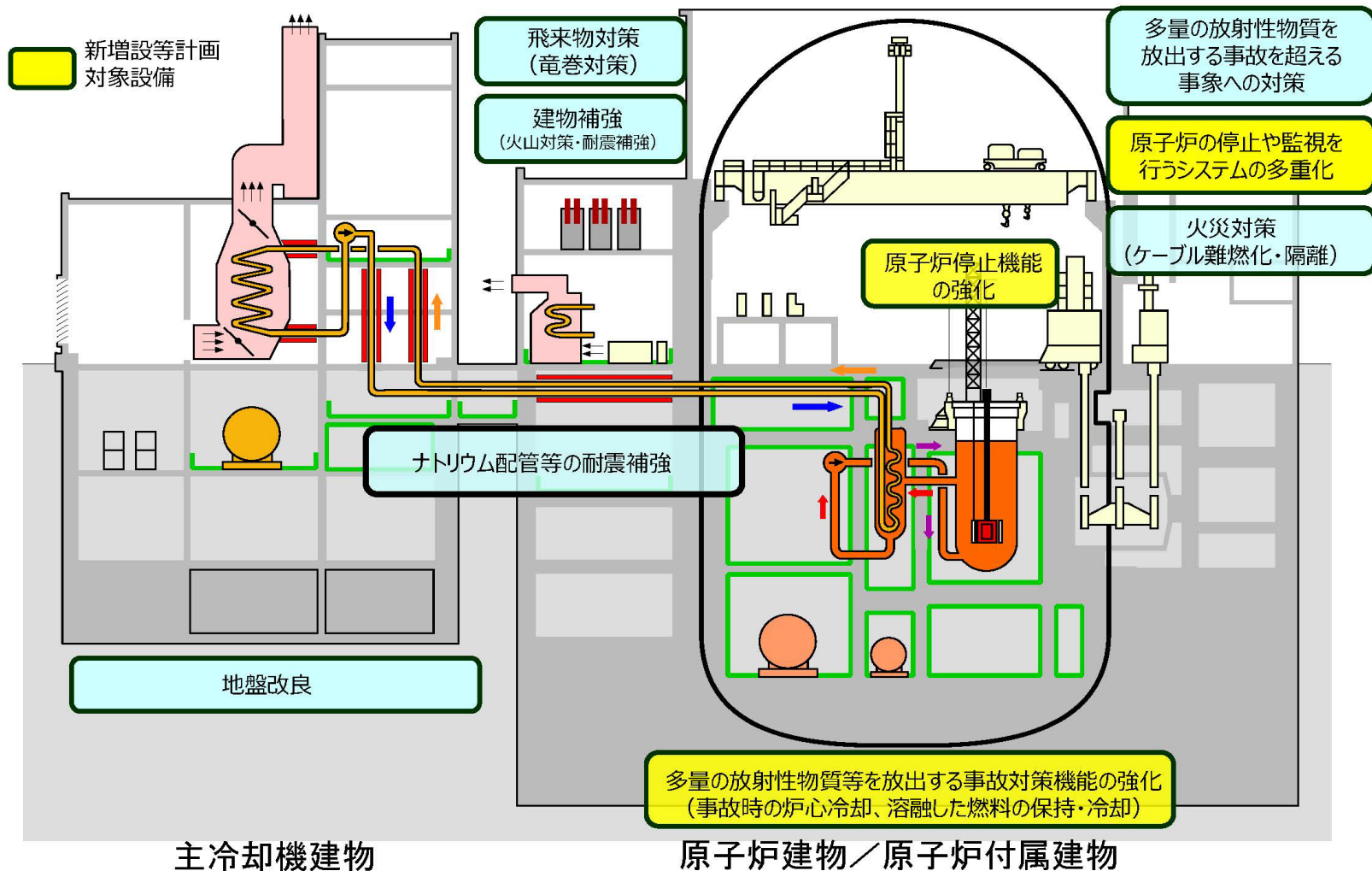
JAMPAN: JAEA Advanced Multi-Physics Analysis platform for Nuclear systems の略

- MVP : 汎用中性子・光子輸送計算モンテカルロコード
- JUPITER: 多相多成分詳細熱流動解析コード
- NASCA : サブチャンネルコード

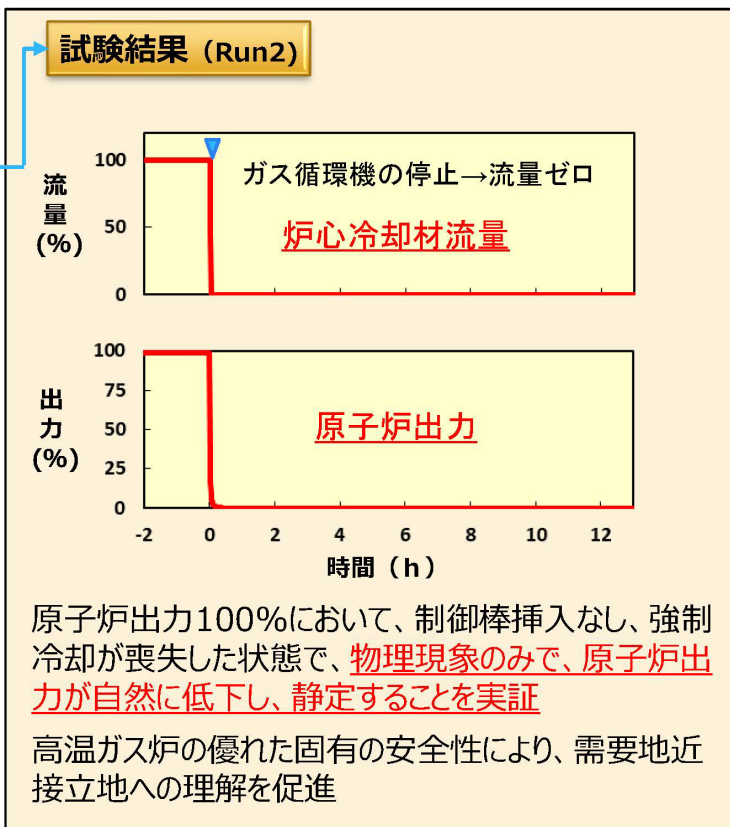
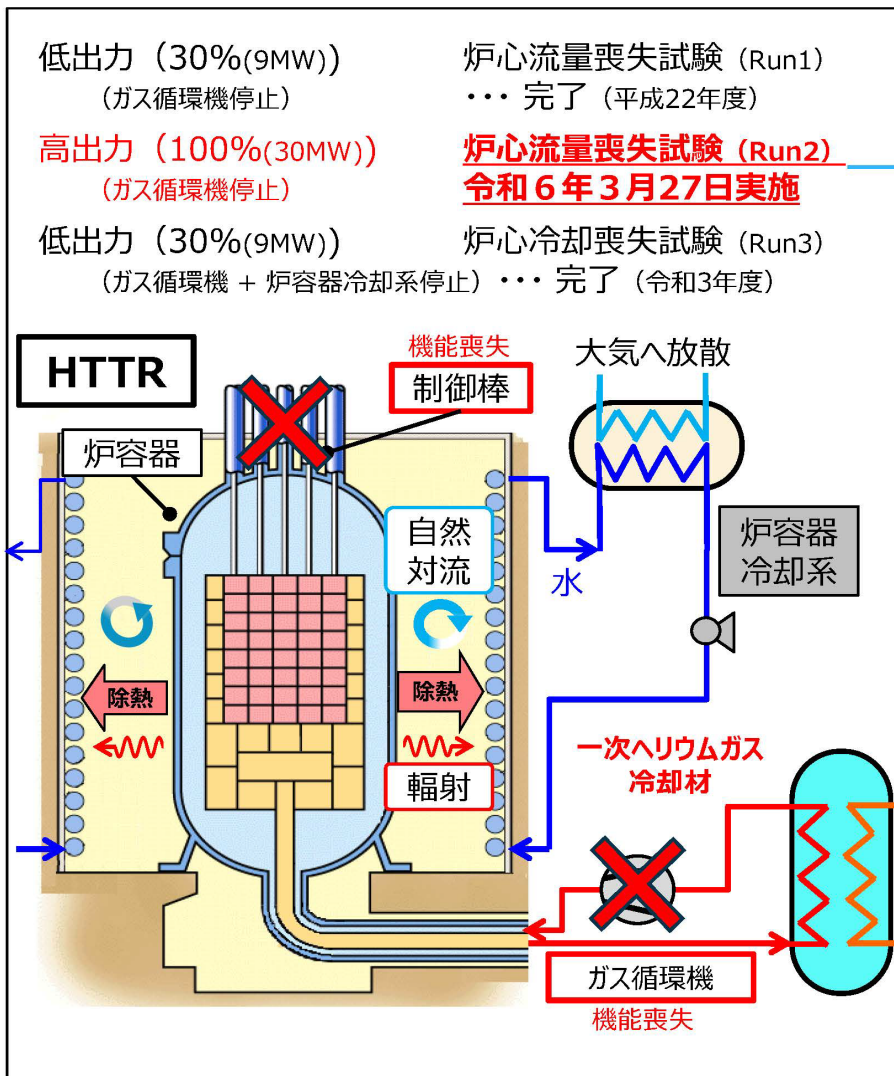
JAMPAN上でMVP/NASCAコードを用いたBWR全炉心シミュレーションの結果

高速実験炉「常陽」の新規制基準適合のための工事を実施中

➤ 2026年度に運転再開の予定。燃・材料の照射試験やRI医薬品の製造に活用する



高温ガス炉の固有の安全性を実証

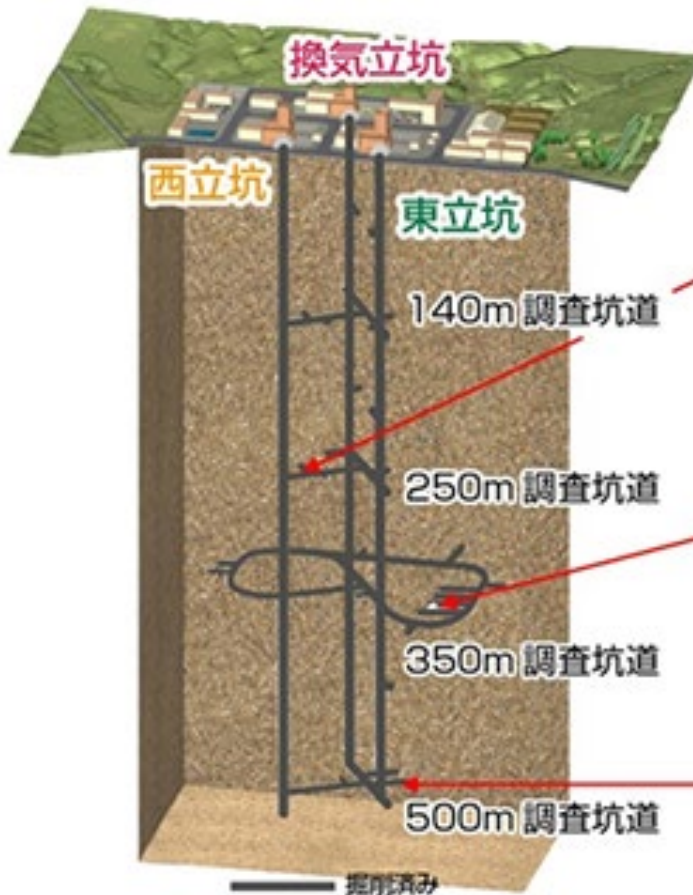


OECD/NEA国際共同研究プロジェクト

米、仏、独、韓、チェコ、ハンガリーが参加し、HTTRを用いた強制冷却喪失時の革新炉の性能を研究
 今後、解析による検証を行い、報告書を発刊予定

実施主体(NUMO)や国に対して技術基盤を提供

- 現在は、幌延深地層センターを中心にデータや技術を蓄積
- OECD/NEAの「幌延国際共同プロジェクト」を実施中



【地下施設イメージ図】



国や東電等と連携し、燃料デブリの分析などを実施

- 大熊分析・研究センター、廃炉環境国際共同研究センター、楢葉遠隔技術開発センターと、茨城3拠点等が連携して対応中

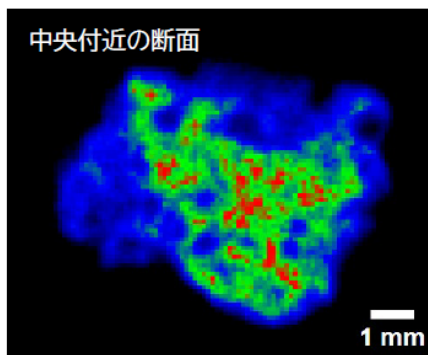
<https://fukushima.jaea.go.jp/>

燃料デブリの性状把握



サンプル外観

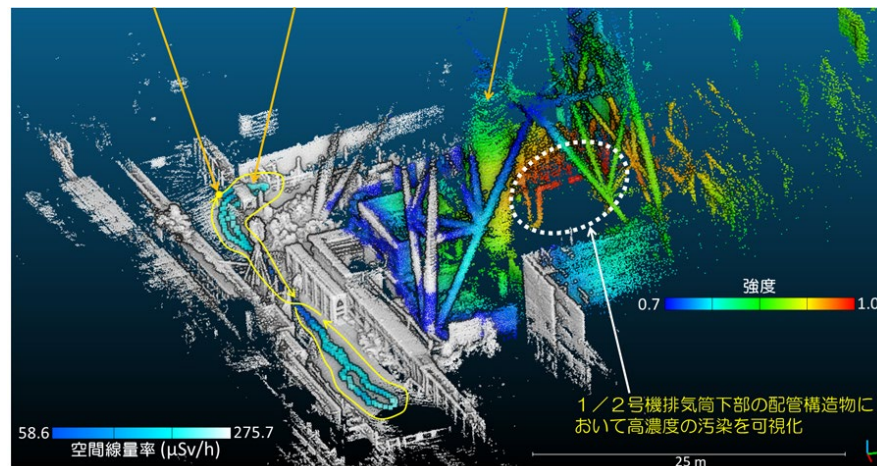
大きさは約9mm × 約7mm



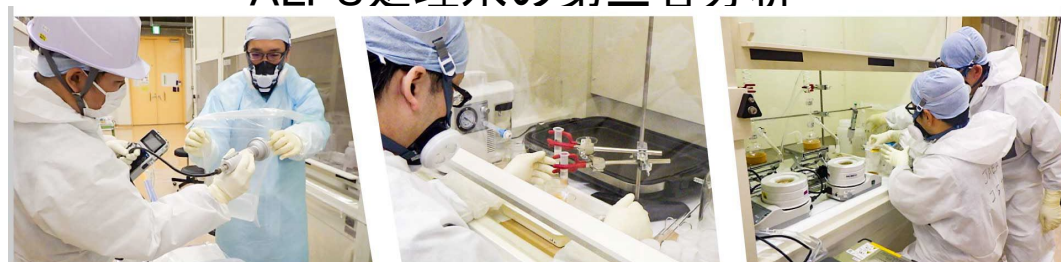
サンプルのX線CT像

https://fukushima.jaea.go.jp/info/R6-Templates/PDF/20250131-shiryo_ikeuchi.pdf

作業時の被ばく低減のための 汚染分布3D可視化

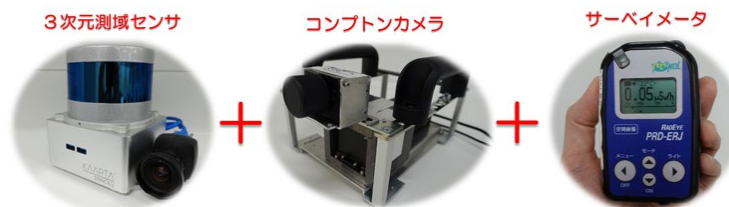


ALPS処理水の第三者分析



大熊分析・研究センターの放射性物質分析・研究施設第1棟での分析

<https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/alps/index.html>



統合型放射線イメージングシステムiRIS

<https://www.jaea.go.jp/02/press2021/p21051403/>

被規制施設の運転管理組織から区分し、原子力安全規制等の技術的支援を実施（JAEAの様々な施設を活用した安全研究や原子力防災支援）

リスク情報活用

外的要因を含め、シビアアクシデントに至る事象に係るリスク評価手法の高度化と意思決定への活用

原子力防災の最適化

プラント情報の防災への活用、モニタリング技術開発と体制整備、専門的人材の育成・訓練

長期運転対応

中性子照射脆化等による原子炉健全性への影響評価手法の高度化

環境安全評価

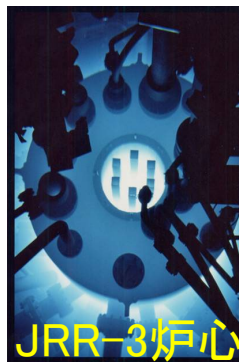
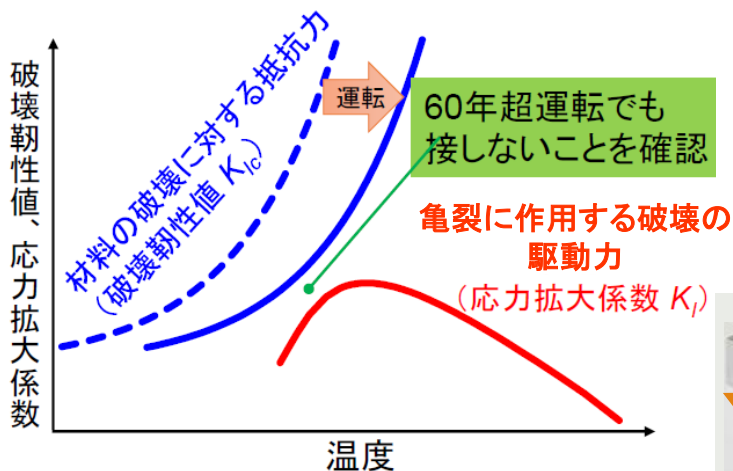
炉内等廃棄物等の処分の安全性評価手法の整備

中長期目標期間（R4～R10年度）における取組の4本柱

軽水炉の圧力容器の照射影響評価

- 中性子照射によって圧力容器に生じる脆化が、事故時の加圧熱衝撃に耐えられるかどうかを判断するためのコードPASCAL5(確率論的破壊力学(PFM)解析コード)を開発
- 材料をJRR-3で照射し、WASTEF(ホットラボ)で微細試料加工と破壊試験を実施

破壊力学に基づく評価



破壊(脆性破壊)を防止するための条件

$$\boxed{\text{破壊靱性値}} > \boxed{\text{応力拡大係数}}$$

ミニチュアC(T)試験片によるホット試験技術を確立

原子力緊急時支援・研修センター(NEAT)を中心に活動

- 緊急時：専門家の派遣、資器材の提供、モニタリング支援など
- 平常時：上記にかかる技術開発、訓練(国、地方自治体など)支援、研修など



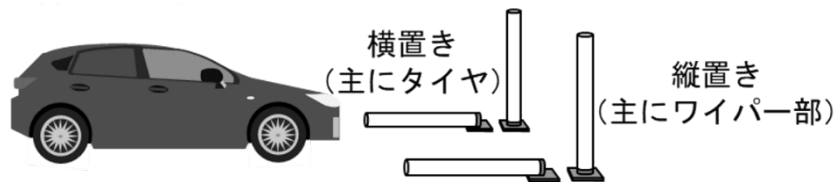
原子力緊急時支援・研修センター(茨城)と
茨城県オフサイトセンター



避難退域時検査会場への
体表面測定車の派遣



ヘリコプターを用いた
モニタリング技術の開発



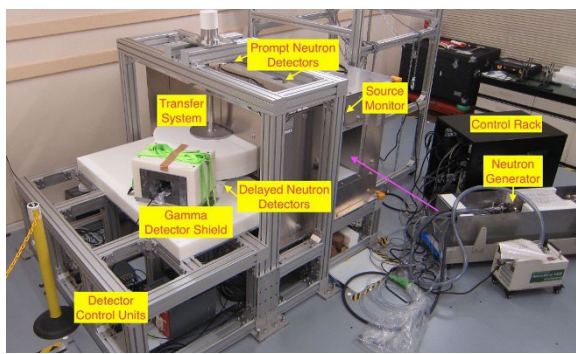
効率的な汚染車両スクリーニング方法の提案
(タイヤ・ワイパー同時検査のための検出器の新たな配置方法)

<https://www.jaea.go.jp/04/shien/index.html>

https://www.jaea.go.jp/04/shien/Lastyear_topic12_j.html

保障措置・核セキュリティ技術開発と国際協力を推進

➤ 核兵器・核テロの脅威の無い世界の実現に貢献する技術開発と人材育成



アクティブ中性子技術開発： 遅発ガンマ線分析法(DGS)

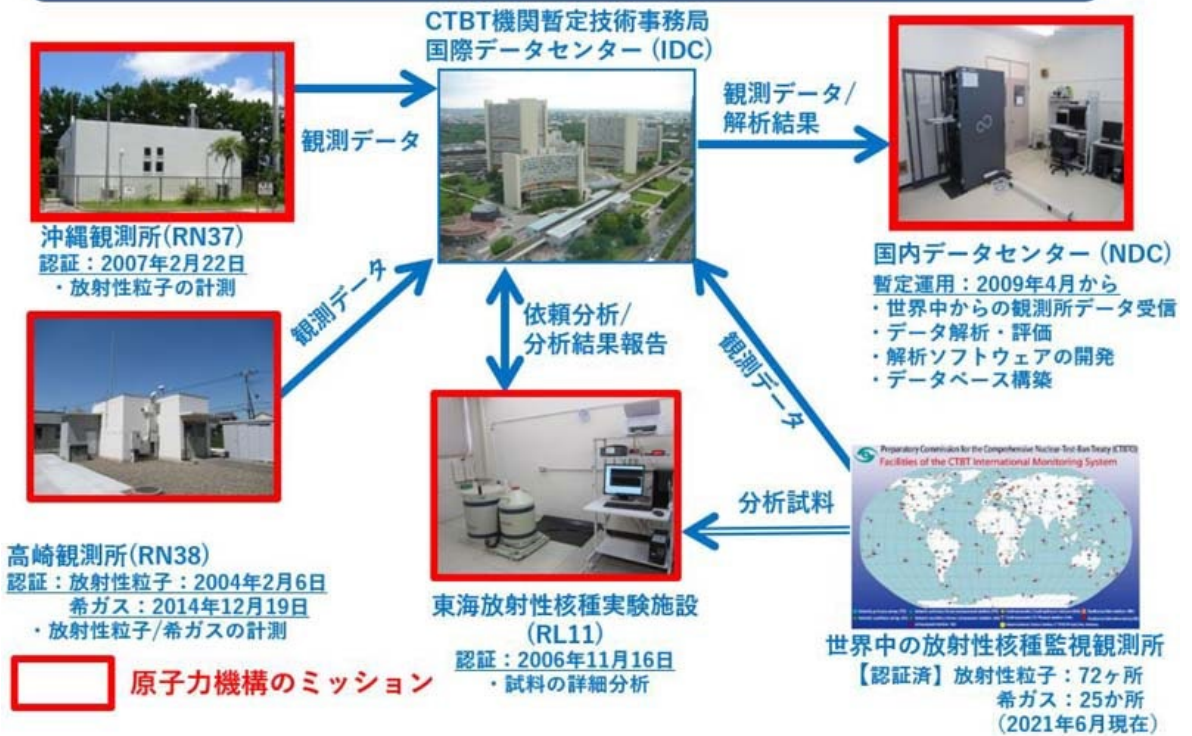
試料に中性子を照射し、含まれる核物質の核分裂で生じる核分裂生成物(FP)からのγ線で、核物質の種類を見分ける手法



人材育成

(核物質防護トレーニングにおけるグループ演習の様子)

放射性核種に係るIMS監視施設運用機関として我が国のCTBT国内運用体制*の強化のため、核実験検知能力向上の技術開発を実施



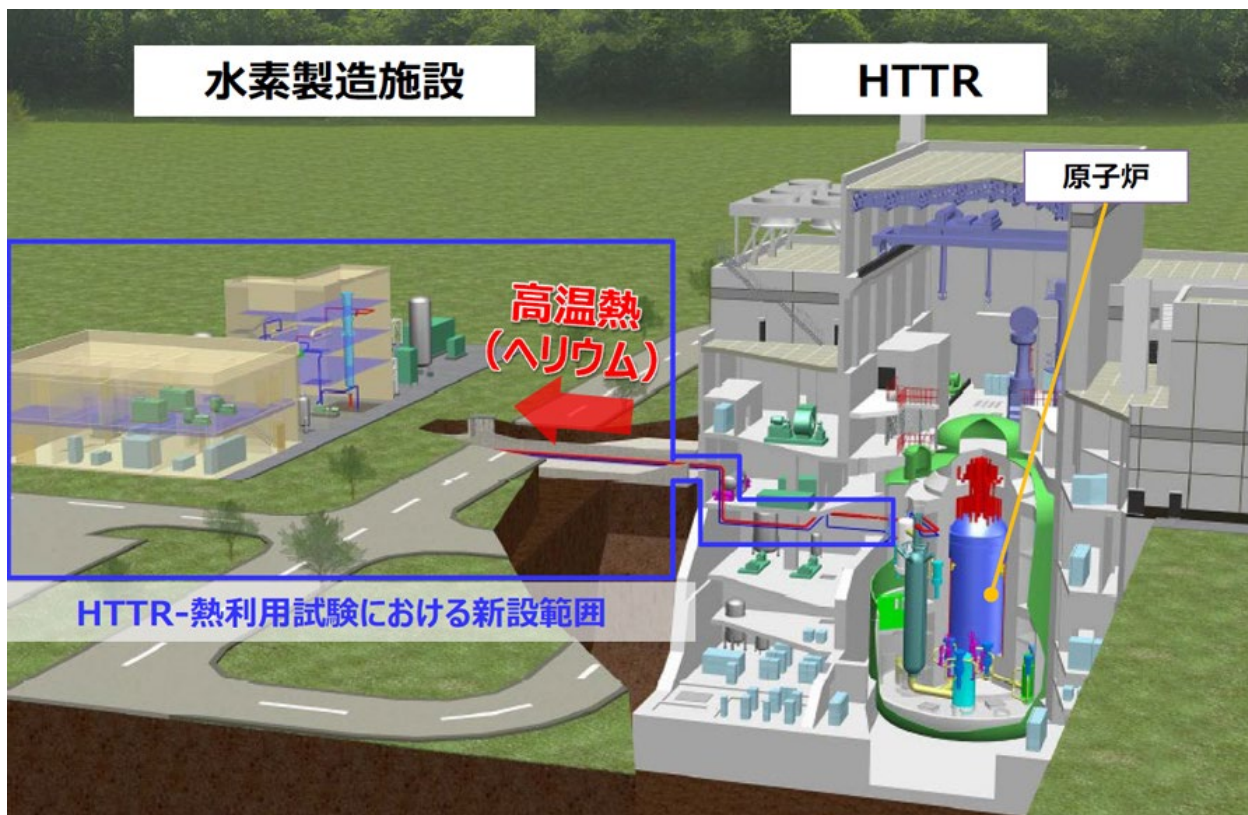
*：(公財)日本国際問題研究所 軍縮・科学技術センターを事務局として日本気象協会及びJAEAが運用するIMS監視施設と国内データセンターから構成される。

<https://www.jaea.go.jp/04/iscn/>

<https://www.jaea.go.jp/04/iscn/org/tecdev.html>

高温ガス炉(HTR)からの超高温熱を活用した カーボンフリー水素製造方法の開発

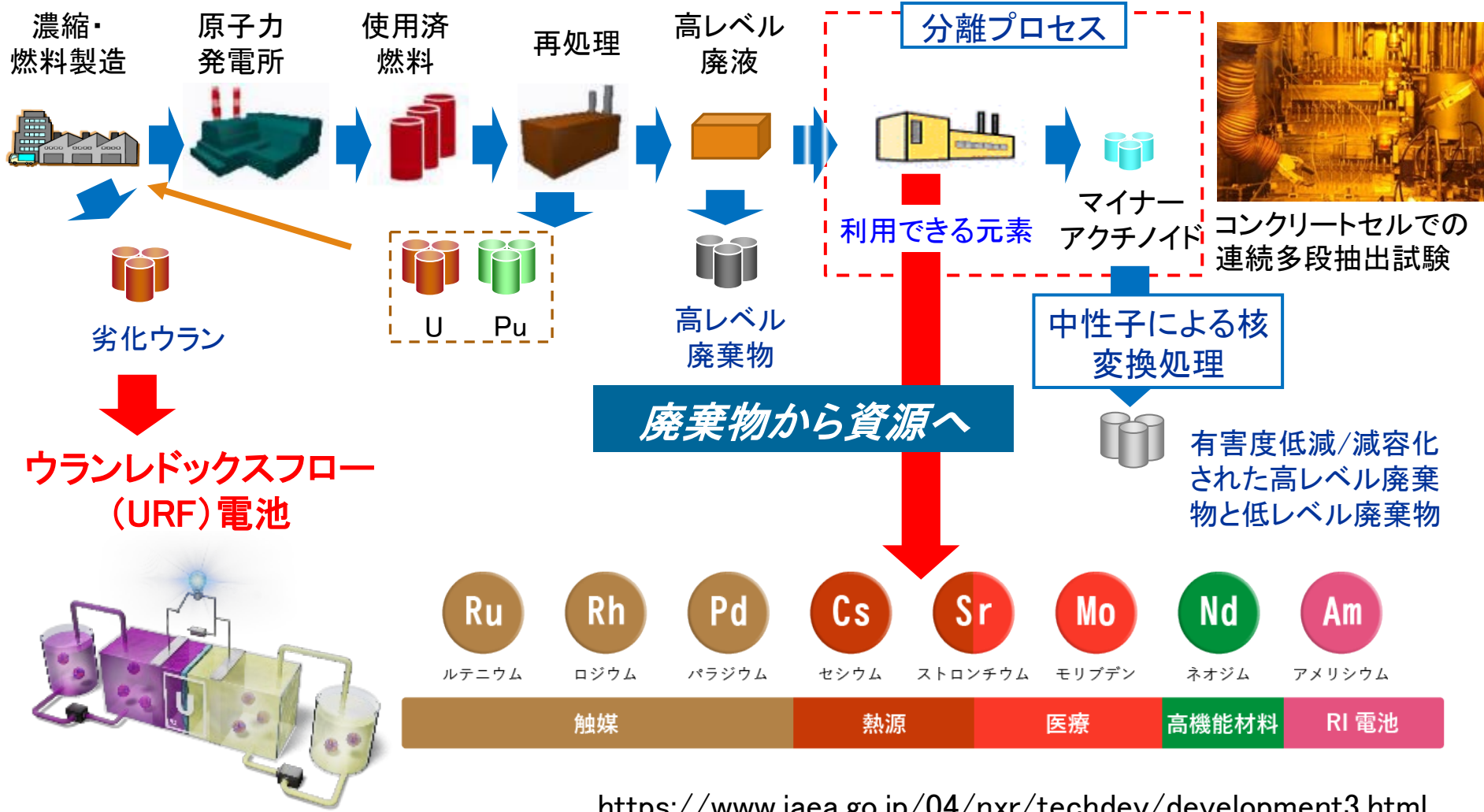
- 現在、熱利用試験施設接続に係る原子炉設置変更許可を申請中



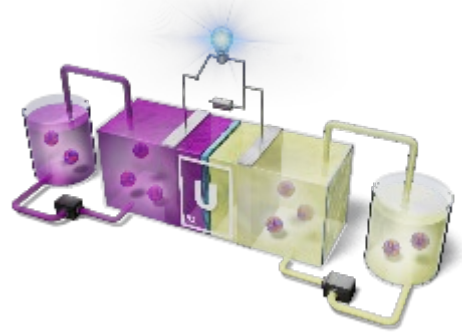
HTTR-熱利用試験施設

高レベル廃液からの有用資源回収と劣化ウランの電池利用

<https://www.jaea.go.jp/04/nxr/>

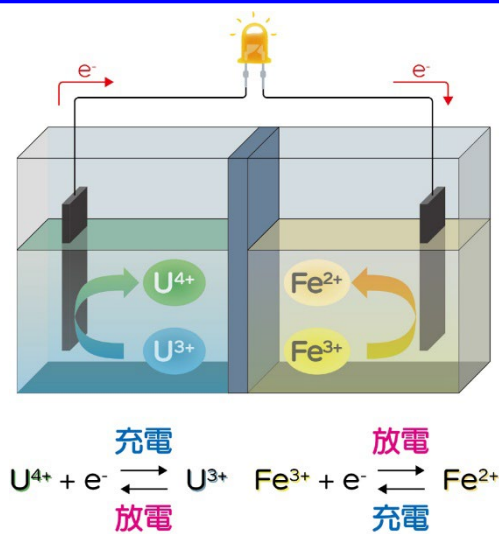


コンクリートセルでの連続多段抽出試験



貯蔵から電池へ

<https://www.jaea.go.jp/04/nxr/techdev/development3.html>

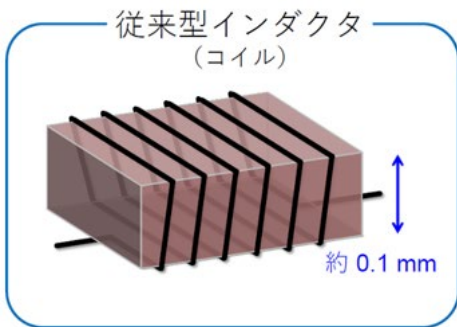


ウラン蓄電池の放電試験 蓄電池に接続したLEDが点灯し、放電を確認できた
 (2025年3月13日プレス発表) <https://www.jaea.go.jp/02/press2024/p25031301/>

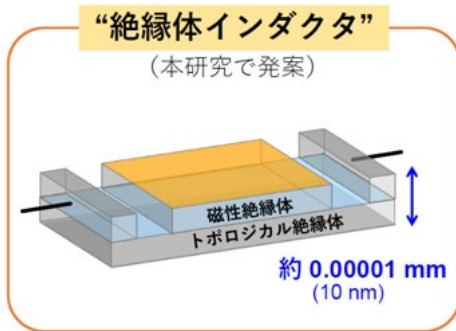


(a) 遠隔操作で Am 封入ピンを挿入 (b) 熱電変換デバイスの起電力で LED 発光

Am-241による発電実証試験(2025年3月28日プレス発表)
<https://www.jaea.go.jp/02/press2024/p25032802/>



同等の電力効率を保ったまま
約 $\frac{1}{10000}$ に小型化



ウランによる超伝導やスピントロニクスなど新しい原子力科学技術の可能性に挑戦

<https://asrc.jaea.go.jp/index.html>

「インダクタ」のサイズを10000分の1に！超小型化できる新原理を考案—電子回路の小型・省電力化によるIoT社会の進展に期待—

(2023年6月16日プレス発表)

<https://www.jaea.go.jp/02/press2023/p23061602/>

「ウラン系超伝導体はなぜ磁場に強い？」

—超伝導を強くする磁気揺らぎの観測に成功—

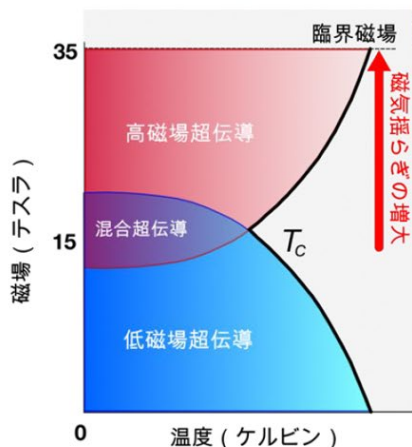
(2023年11月30日プレス発表)

<https://www.jaea.go.jp/02/press2023/p23113001/>

ウラン系超伝導体
ウランテルル化物 UTe_2



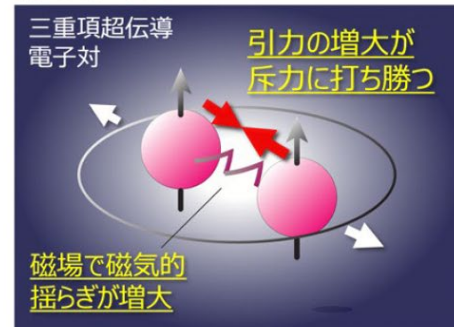
強磁場中で超伝導が安定化
高磁場超伝導の出現!
(普通の超伝導は磁場に弱い…)



NMR測定で明らかに!

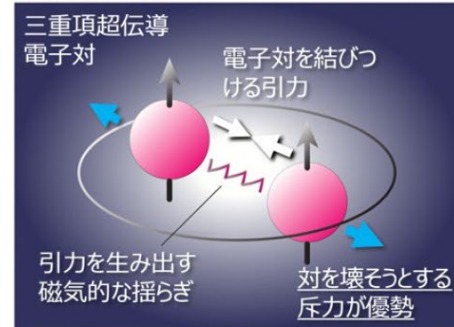
強い磁場でなぜ超伝導が安定化?

高磁場超伝導



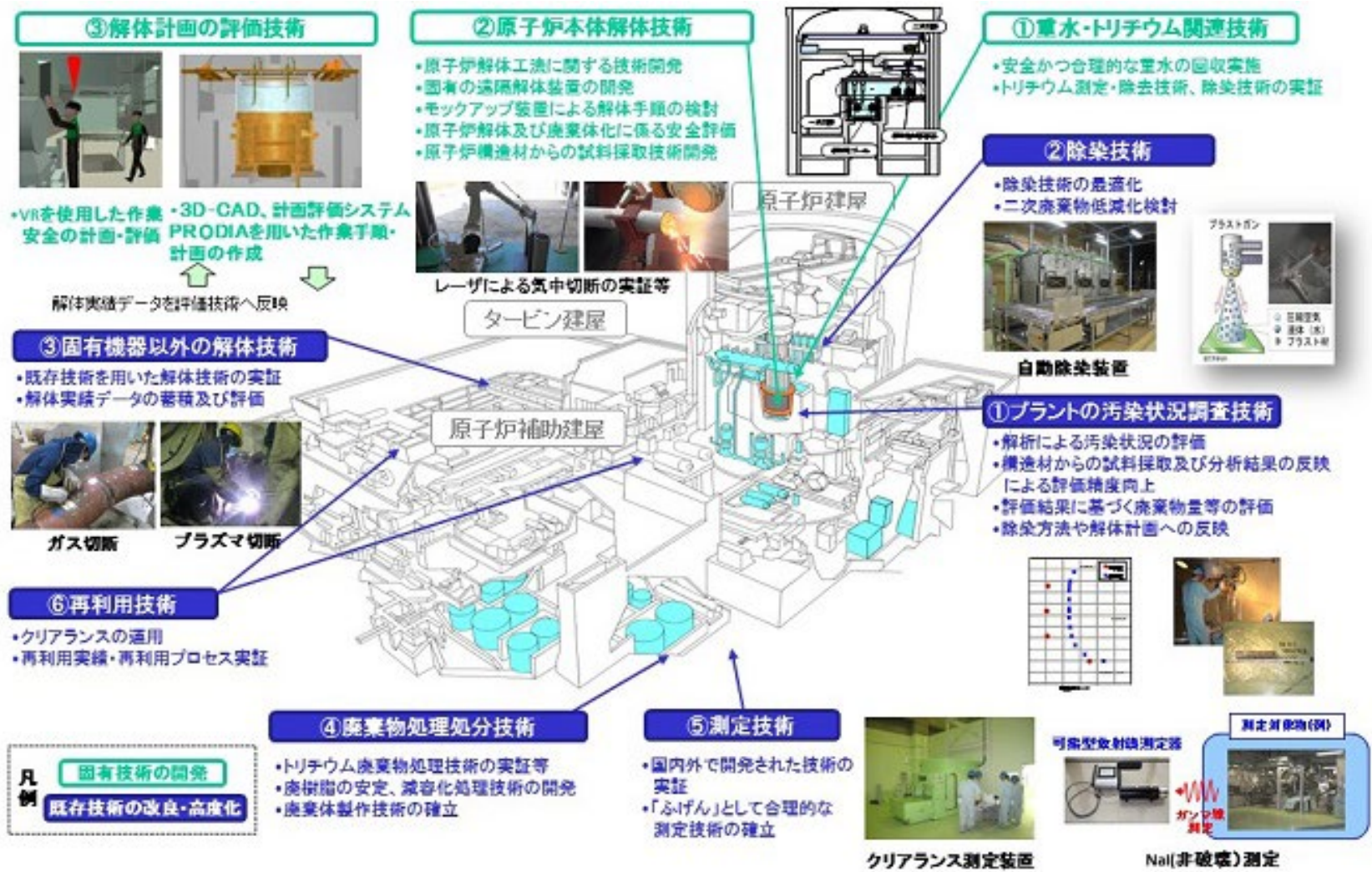
強磁場をかけると…

低磁場超伝導



多くの廃止措置対象施設を対象に技術を開発

➤ 遠隔・自動化、クリアランス、廃棄物の減容化・安定化等の技術を開発中
 例：ふげんでの取り組み <https://www.jaea.go.jp/04/fugen/haishi/engineering/>

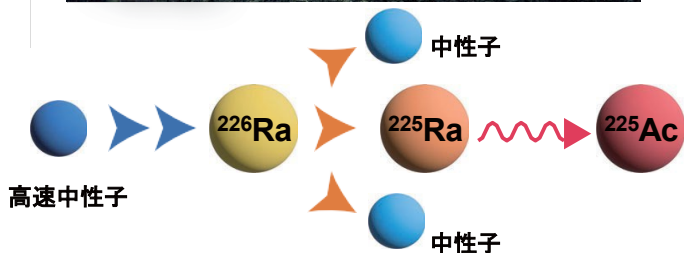


主に、保有する研究炉を活用して貢献

- がん治療用のAc-225と診断用のMo-99/Tc-99の製造実証に取り組み中

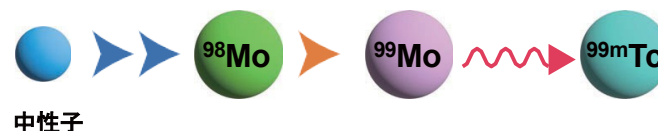
高速実験炉「常陽」 ^{225}Ac の製造

世界的に注目されているがん治療用RIの生産のため、高速炉ならではの**高エネルギーを有する中性子 (高速中性子)**を活用した ^{225}Ac 製造技術を確認します。



研究用原子炉「JRR-3」 ^{99}Mo の製造

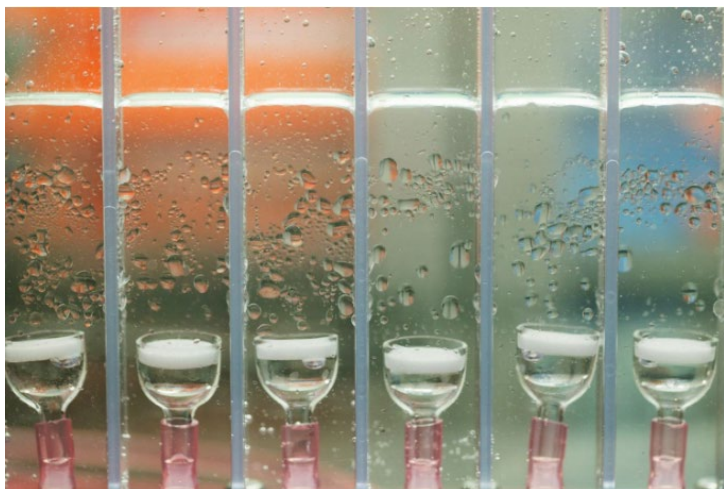
持続可能な医療用RIの生産のため、従来方法より**放射性廃棄物の発生を低減**する「放射化法」による ^{99}Mo 製造の技術を確認します。



元素分離や物質創成のポテンシャルを活かす

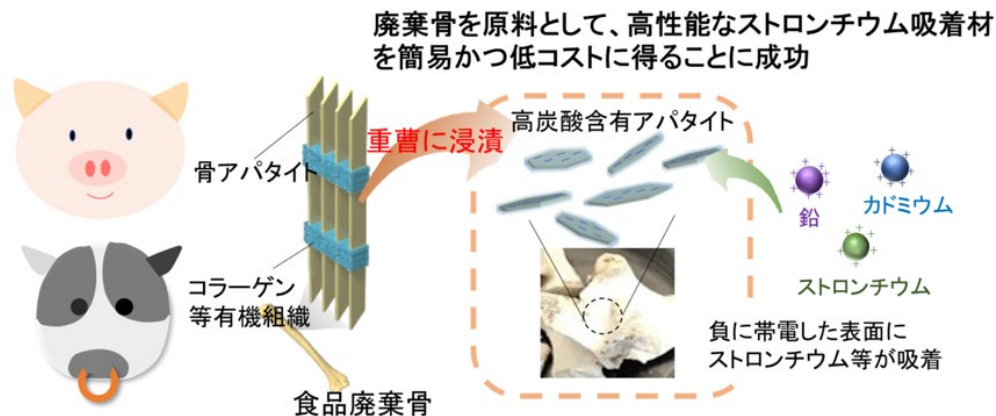
- JAEA発ベンチャー「エマルションフローテクノロジーズ」はリチウムイオンバッテリーのリサイクルやPFAS(有機フッ素化合物)の回収に挑戦中
- 原科研にパイオニアラボ「バイオマス資源開発ラボ(関根ラボ)」を設けて様々な機能性材料を研究・開発中

目的成分のみを選択的に抽出する エマルションフロー



<https://emulsion-flow.tech/>

廃棄豚骨が有害金属吸着剤に —廃材を利用した安価で高性能な金属吸着技術を実現— (2021年2月プレス発表)

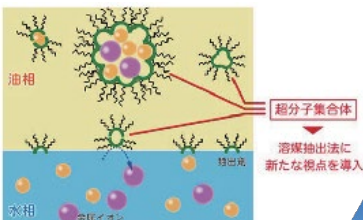
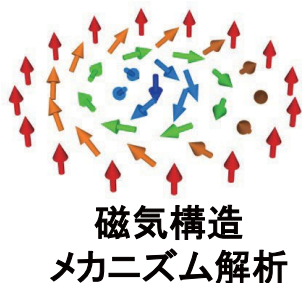


<https://www.jaea.go.jp/02/press2020/p21020401/>

J-PARC、JRR-3で生み出す中性子を基礎科学研究から産業応用まで幅広く活用

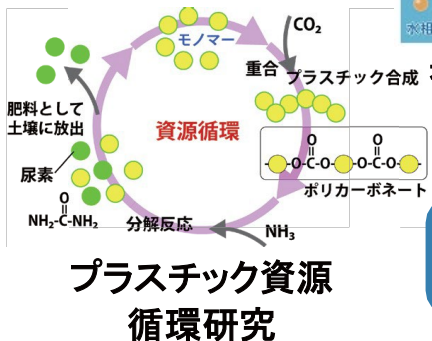
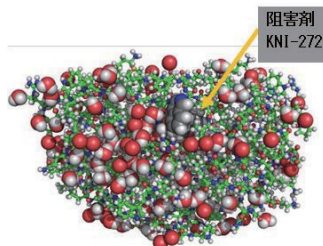
- 中性子がつもつ波の性質、磁石の性質、高い物質透過力、核反応を起こす能力、軽元素を見分ける能力を最大限に活用し、幅広い分野でイノベーション創出に貢献
- 幅広く外部ユーザーにオープン。自らも研究することで高性能化を主導

革新的学術成果
・シーズ創出

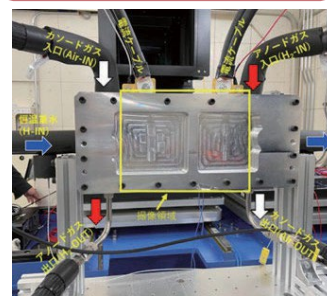


希少金属元素
再資源化

環境・エネルギー
問題解決



産業競争力
強化



燃料電池内
水分布可視化

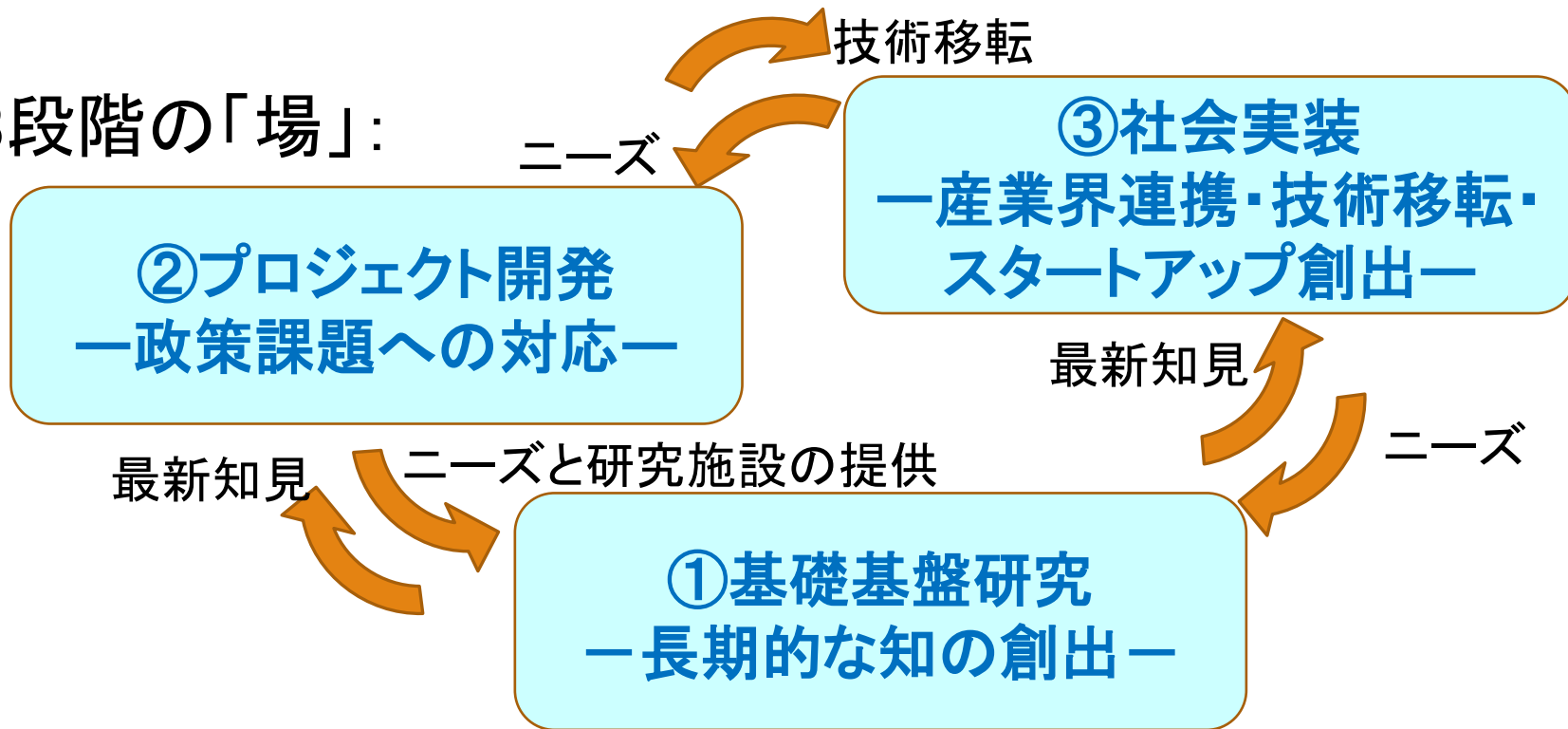


社会基盤・
国土強靱化

研究開発力の維持・強化：

研究開発を担う「**人材**」 × 能力を発揮できる「**場**」

3段階の「場」：



JAEAが担う基礎基盤研究、プロジェクト開発、社会実装
を通して人材が成長する

ポイント

- ◆ 若者が原子力に興味を持ち、志望するきっかけ作り → 魅力・課題、活躍する若手の姿の情報発信
- ◆ シームレスに成長・活躍できるシステムの構築 → セクター間・世代間の交流活性化

①初等・中等教育

②高専・大学教育

就職

③キャリア開発

④技術継承・
世代交代

具体的な打ち手

① 初等・中等教育： **教育・広報**による興味喚起とイメージ刷新

- ・ 原子力版STEAM教育プログラムの創設(高専・高校・中学向け)
- ・ 原子力科学技術の魅力発信の強化、若手研究者・技術者のロールモデル発信(SNS/YouTube)

② 高専・大学教育： **技術/技能の習得と、イノベーション創出**の場としての機能強化

- ・ 大学・高専・職業訓練校における原子力教育や技能習得(溶接・非破壊検査・放射線管理等)の強化と指導者育成
- ・ 大学発スタートアップ企業の奨励、非原子力分野(人文社会系を含む)との連携による課題解決の推進
- ・ 多様な選択肢(企業就職、研究機関、大学教員、起業)の提示、インターンの共通プログラム化(全国共通資格制)

③ キャリア開発： **若手技術者・研究者のキャリア支援と人材流動性の促進**

- ・ 大学⇄企業⇄国研の交流活性化と、人材の産学官連携キャリアパス形成(現場への留学/交流制度を含む)
- ・ 他分野からの越境人材(AI、材料、IT、社会学、..)の転入促進
- ・ 進展著しいIT分野を中心に、リスキングの奨励(資格制度の活用など)
- ・ 廃炉・保守分野などでの地域雇用モデル(地域高専・地元企業と連携)のアピール

④ 技術継承・世代交代： **現場に根差した技術・知見の継承**

- ・ ベテラン技術者の知見を形式知化(AI活用)する“技術アーカイブ”事業の創設、
- ・ 様々な課題への挑戦を通じて、キャリアの最後まで輝ける働き甲斐のある分野としてのアピール

◎JAEAの果たすべき役割

- ① → 様々な情報発信、講師派遣、施設公開
- ② → 実務訓練と研究機会の提供、インターンプログラム、修士・博士課程への研究インフラの提供
- ③ → 人材交流のハブ機能、イノベーション創出のフィールド提供、地域拠点を活用した人材循環
- ④ → ベテラン研究者・技術者による技術の文書化・動画化、ナレッジベースの構築



国内研修



核セキュリティ研修
(主にアジア諸国)



防災支援研修

<https://www.jaea.go.jp/04/shien/index.html>



学生受け入れ
(夏季実習、特研生など)

https://iscn.jaea.go.jp/nuhrdec_top.php



核物質防護
実習フィールド

<https://www.jaea.go.jp/04/iscn/>

見学会なども開催しています！

<https://www.jaea.go.jp/saiyou/new/seminar.html>

令和8年度 特別研究生募集中！(12/25締切)

https://iscn.jaea.go.jp/student_intern_guidelines_tks.php

講師を派遣します！(大学、高専、高校、中学)

<https://www.jaea.go.jp/kouza/>

- 世界中で原子力の研究・開発・利用が活発化する中で、
国立研究開発法人の果たすべき役割も変わりつつある
- 国主導から産業界主導にシフトする中で、原子力機構が
イノベーションの源泉・社会実装のツールとして機能すべき
- 2050年のカーボンニュートラルを見据え、既存軽水炉から革新炉
まで、原子炉、核燃料サイクル、バックエンドなど幅広く貢献する
- エネルギー分野以外の原子力科学技術の研究開発も
重要なミッション
- 多様な取組と、異分野の融合の中で人の成長を促す